

ていゆう

定雄 (生没年不詳、江戸時代)

俳人。吉田(現、宇和島市)を中心に活動した人。湖照の門人。浦川富天が松木淡々から宗匠の免許を受けた祝賀の俳書『押花宴』で、祝賀の歌仙興行に参加した定雄が、客として発句を詠んでいる。また、富天来遊のとき、寸山、千岫、高月狸兄らとともに歌仙を巻いて(俳諧の付け合わせをして)歓迎している。定雄の句は『歳暖集』、『百三十番発句合』など諸書にみられ、狸兄と並ぶ吉田連衆の中心的存在であった。

略歴

生年不詳

元文5(1740)年

富天編『押花宴』刊。定雄の句が収められている。

寛保2(1742)年

富天編『猿亀』刊。定雄の句が収められている。

寛保3(1743)年

椎本芳室編『妻戸埜波那』刊行。定雄の句が収められている。

延享2(1745)年

淡々編『歳暖集』刊。定雄の句が収められている。

寛延3(1750)年

正木風状編『よよし簾』刊。定雄の句が収められている。

宝暦4(1754)年

柯林等編、淡々評『百三十番発句合』刊行。定雄の句が収められている。

宝暦14(1764)年

山中時風の巖島紀行に対する賀句を送る。

没年不詳

〈関連図書〉

・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 文学』愛媛県 1984年